

Q. 児童生徒に身近な水田等の

生物調査の体験を

A. 環境教育を重要な柱として進める

栗田 昌子 議員

Q

今、生態系の豊かきやバランスは急激に崩れつつある。

COP10を単なるイベントで終わらせてはならない。生物多様性を知るための第一歩として身近な水田などの生物を調査すること。とりわけ子どもたちに、実体験をさせてやりたい。



COP10を機会に生物多様性を知ろう

A

これまで、学校においては、学校独自の指導計画に基づいて環境教育を実施してきた。今年度は特にCOP10が開催されることを契機に、町内の全学校でドングリの植樹を行った。学校では、今後も環境教育を教育活動の重要な柱の一つとして位置づけ進めていく。

Q. 小学校図書室に地域のボランティアの力を

A. 大がかりな図書室整備のとき支援を考慮する

Q

本来なら司書教諭の設置が望ましいが、町財政上、地域のボランティアの活用を考慮してはどうか。

A

学校図書室の機能の充実、各学校においても重要である。運営等に関しては児童生徒による図書委員会が設置されており、図書室の

整理・本の貸し出し作業等が行われている。今後、比較的大がかりの図書室整備を行うような状況が生じたときには、支援をしていただくことも考慮していく。

【その他の質問】

・小学校校庭を安全で健全な遊び場として開放してほしい